

兵庫県保険医協会北阪神支部主催 経営対策研究会

医院に活力 就業規則のつくり方

参加無料

日時 7月31日(土) 14時～16時

会場 いたみホール 5F会議室1
(TEL: 072-778-8788)

講師 桂労務社会保険総合事務所
桂好志郎氏

定員 30人 (定員になり次第締め切ります)



医療機関の安定経営に、優秀な人材の確保は不可欠です。職員1人ひとりがモチベーション高く患者さんに笑顔で対応してくれるには、何が必要でしょうか？厳しい経営環境の下でも職員を大切に、スタッフとともに安全・安心のチーム医療を実践するために、適切な雇用管理は避けられない課題です。スタッフとの関係悪化が、税務・会計・保険請求などに波及し、医院の思わぬ躓きになる例も…。

就業規則の整備もトラブルを避ける方法の1つ。平成20年の労働契約法、パート労働法、最賃法の改正のほか、今年4月の時間外労働の削減、有給の時間単位取得など最近の労働法規改定の流れについて学びます。医療機関にとって重要な財産であるスタッフと活気あふれる職場をつくるために、労務管理の基礎知識と就業規則作成のポイントをおさえる本企画にぜひご参加ください。

*院長先生をはじめ、雇用管理を担当されている方々のご参加をお待ちしております。

恐れ入りますが、下記FAXにてお申し込みください。

お問い合わせは協会事務局 吉永・小川まで TEL078-393-1809

(切り取らずに返信ください)

【FAX返信】

経営対策研究会(7/31)に 078-393-1802宛

□参加する ()人 兵庫県保険医協会北阪神担当行

地区 _____ お名前 _____ 職種()

☎ _____ FAX _____

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2010年5月25日号 No.203

発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階

☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802

http://www.hhk.jp/

医療安全管理研修会・感想文

実践で役立つ内容

伊丹市・歯科 上り口寛武



61人が集中的に学びあった

北阪神支部は4月17日、医療安全管理対策研究会を開催し、61人が参加した。市立伊丹病院感染対策室副主幹の大迫しのぶ氏、同病院医療安全管理室主査の中村隆氏が講師をつとめた。参加者の感想文を紹介する。

先だつての大迫先生のお話は、安全対策が日常診療で行われる最も大切なものでありながら、つい見逃してしまうところを指摘された、実に目からうろこのお話でありました。やはり、

第一線で活躍されている方の講義は、殿さまになってしまった教授の講義と違い、実践で役に立つことを実に多く含んでおられました。

某大学病院では、分業の弊害か、医師も看護師も処置室の汚れは掃除係に任せ、自らは対応せず、特にロッカーの影になった換気扇につららのごとくゴミが付着しているのを看護主任が放置した結果、術後性蜂窩織炎が多発したことなどをみても、自分の職域は自分で守るという、最低限度の義務も果たせずにいる指導者の多いなか、大迫先生の講義をお聞きして、自戒の一助にしく思っております。

感染対策は患者さんのためばかりでなく、医療従事者の安全にとり、必要欠くべからざるものであり、心して拝聴いたしました。

また、外来での医療安全管理についての中村先生の講義は、医療の安全を守るため

(2面につづく)

(1面からつづく)

にはお金が必要であるという原点に立ち、このお金は健康保険では出てこないものであること、従って現在は医療従事者の献身的な努力と奉仕の精神で何とか危機を回避しているものの、昨今のモンスター患者の増加は著しく、対応に苦慮することが多くあるとお聞きいたしました。

その中で、安全確認のために、交通機関の方々がよくする指先確認は良いアイデアだと思います。私の診療所でも、すぐ実行いたしました。

われわれ第一線の臨床医の心身症になりかねない心労を、またその医師を監査しなければならない医療Gメンの辛い気持ちを、中央のキャリアと称する人たちは理解されているのかと、ふと思いました。が、あの脳天気な某国首相のもとで期待することは、猫に因数分解を教えるより難しいとあきらめております。

今回の意義ある内容の講演を企画された保険医協会に感謝いたします。

毎回好評の職員接遇研修会

クレーム処理は初動が肝心



新入職員からベテランまで多彩な参加

北阪神支部は5月15日、伊丹商工プラザで大手前短期大学准教授の水原道子先生を講師に職員接遇研修会「接遇の基本とクレーム対応」を開催。22医療機関から61人が参加した。

講師は「近年、医療機関に対する風当たりが強くなっているおり、窓口での接遇の善し悪しで医院のイメージが大きく左右される。健康を害した人の立場に立ったコミュニケーションを心掛けよう」とし、あいさつや受付での対応、電話での言葉遣い、クレーム処理

などの事例を通じてポイントを紹介した。

特に、クレーム処理の心得について講師は、苦情を受けたら「人をかえる」「場所をかえる」「時間をかえる」の3つの留意点を強調。「決して1人で抱え込まず集团的に初期対応することが肝要」「院長を矢面に立たさない様に、水際で上手に執り成すよう気をつけよう」と呼びかけた。

参加者からは、「自分の窓口対応を見なおすよい機会になった。医院に持ち帰って役立てたい」「患者さんの身になって考えることの大切さを再認識した」などの感想がだされた(次号感想文掲載)。

第77回評議員会

民主党政権への働きかけ強めよう

谷口紀善先生が発言



「今こそ旺盛な国会要請を」と谷口先生

協会は5月16日、協会会議室で第77回評議員会を開催。全体で104人が参加。2009年度会務報告、2010年度活動方針案、2010年度予算案などが承認された。

全体討論で発言に立った谷口紀善評議員(伊丹市)は「国民の期待を受けて成立した民主党政権だが、『医療は日本の将来に向けた投資』との認識がない」「迷走を続ける民主党政権に今こそ国民の声を届けよう」と国会要請行動の重要性を強調した。

特別講演では、法政大学大原社会問題研究所の五十嵐仁教授が「鳩山政権を診断する～日本政治の現状と課題をどう見るか」と題し講演。講師は民主党政権の特徴を「自公政権時代に比べ、労働法制の見直しなど“よりまし”な面はあるが、新自由主義路線と決別できていない」とし、自公政権によって壊された地域ネットワーク再生の必要性を指摘した。



今後の政局にもふれて講演した

兵庫県保険医協会 第42回総会のご案内

6月20日(日)13時30分～/神戸チサンホテル 3階六甲

■総会議事 13時30分～

2009年度会務報告、2010年度活動方針案 2010年度予算案ほか

■記念講演 15時30分～

「脳死と臓器移植 - 移植法改正問題を中心として」

岡山大学医学部客員研究員・元松本歯科大学教授

倉持 武 先生